

第2回仙北市政策検証市民委員会 会議録

- 日時 平成24年5月22日(火) 9時30分～12時5分
- 会場 仙北市役所田沢湖庁舎 第1会議室
- 出席者 委員 田口委員長 大和田副委員長 佐々木委員 草礪委員 橋本委員 堺委員
西村委員 牧田委員 佐藤委員 9名
市 倉橋総務部長 佐藤総務部次長兼企画政策課長 田中総務部次長兼財政課長
運藤総務課長 門脇財政課課長補佐
事務局 企画政策課 戸澤参事 大澤政策推進係長 7名
- 欠席委員 藤村委員

1. 開会

- 事務局 おはようございます。定刻になりましたのでただ今から第2回仙北市政策検証市民委員会を開会いたします。はじめに資料の確認をさせていただきます。
(別添資料について説明)
本日、橋本委員は別の会議もあり10時30分に退席となりますのでご了承ください。
それでは委員長からあいさつをいただきます。

2. 委員長あいさつ

- 田口委員長 おはようございます。大変素晴らしい爽やかな天気になりまして、議論のほうは大いに喧々譁々の議論をしていただきたいのですが、心は今日の天気のように爽やかにいきたいと思えます。着席させていただきます。今日は第2回仙北市政策検証市民委員会ということで、第1回が先週で1週間おいて今日が2回目ということです。今日初めていらっしゃった方もいますので自己紹介を皆さんそれぞれしていただきたいのですが、その前に私から市長に送った設置目的の確認について説明させていただきます。非常に重要なことです。この委員会の目的にかかることですのでこれを先にお話しさせていただきます。門脇市長に先週金曜日の朝にお送りしたものです。
(「政策検証市民委員会の設置目的の確認」資料について説明)
前回一番議論の対象となったのがこの検証委員会の検証対象が何であるのかということでした。委員の間に理解の食い違いがあるということでもう一度確認しなければと思い私から質問させていただきました。次に政策検証市民委員会設置までの経緯について説明します。
(「政策検証市民委員会設置までの経緯」資料について説明)
私はマニフェスト検証に着目しておりまして非常に気になったので市長に確認させていただきました。それに対する回答が仙北市政策検証についての資料です。これは事務局から説明をお願いします。

- 事務局 事務局から説明させていただきます。
(「仙北市政策検証について」等資料について説明)

- 田口委員長 今資料について説明をいただきましたが、昨日いただいた返信のこの資料は私の質問に対してちゃんと答えていないと思えます。マニフェスト検証委員会というのは選挙の時に市長が市民に約束したものである訳です。それ変えるのであれば変えると言わないといけない。変わったということが全然アナウンスされていない、議会にもかかっていないし、それとは別に政策検証委員会が立ち上がったのかそれとも兼ねているのか全然そこがわ

からないです。そこを明確にする必要がある。政策検証そのものは誰も反対しないし良い事だと思いますが、その別の話として4年間で達成すると約束された事がある訳です。それがどうなったんだと、政策検証はこうだという話しはわかりますがマニフェストの検証は一体どうなったんだと、何となくあやふやな感じになってしまっている印象がある訳です。設置の時期もずっと遅れてきている。募集人員も10人から3人に減っているし、そのへんに対しての答えがないです。私はこの回答には納得をしていない状況です。

倉橋総務部長

1回目の時も同じような議論がありまして私からお話ししましたが、基本は市長の選挙の際のマニフェストから出発している訳ですが、市長になられましてそのマニフェストが市の政策に取り上げられた時点でもう公のものになっているということだと私共は認識しています。その点は皆さんにもご理解いただきたいと思えます。それとマニフェスト検証委員会が政策検証委員会になったということですが、門脇光浩個人の検証ということになると誤解を招くのではということで名称を政策検証委員会としたということです。あくまでもそのマニフェストから出発した政策について今回皆さんから検証していただきたいということですので、そういうご理解をしていただくしかないと思っています。この検証委員会の委員長から、最初に言っていることが違ってきているのではないかとのご指摘がありました。これは他の40項目についてもきちんと出来ていない部分もたくさんあります。そうしたものを皆さんからご指摘いただくと、これは充分出来ていないのではないかと、あるいは当初の約束と違うのではないかと、それはどんどん議論していただきたいし、それを基に我々はその政策を主として見直していくということを皆さんにお願いしたいということです。

田口委員長

その説明が充分市民に対してされていないということ、それが納得していただけるかどうかはともかくとしてその説明自体がないということですよね。マニフェスト検証委員会がどこかに消えてしまっているかたちになっています。もうひとつ気になるのは、選挙の時の市長のマニフェストは市の政策になるというのはそうだと思いますが、少し変わってきているところもあって、4年間で実現しますと書いていますが、上期2年間の検証ということで22年度と23年度と言っています。実際に資料を見ると23年度はこの3月末までが対象になっています。前回2年間と言われたので去年の9月までですねと話しをしたのですが実はそうではない。ということは下期2年ということは24年度25年度ということになってその検証は26年度にやるということなので、選挙が来年なので選挙を超えているんです。そのへんがどうなっているのか。

堺委員

委員長ばかり話しをしているようですが、皆さんに意見を聞きながら話しをするべきで非常にやり方が横暴だと思う。私は前回も言ったが、第一に委員会設置要綱がある訳だから設置要綱に自分の考えが合っていないとしたら辞めれば良い訳なので。設置要綱に基づき委員の委嘱状を受けた訳だから。時間がないのにこの項目にやたらと時間を使うのだったらダメだったら辞めたらいい。

田口委員長

そういうことではなくて何を目的としてやっているのかということが曖昧ではダメでしょうということですよ。

堺委員

曖昧ではないでしょう、最初から設置要綱がある訳だから。設置要綱に対してダメだったら辞めれば良い訳だから。

田口委員長

辞めるかというのは委員会自体をとということですか。

堺委員

委員会自体を止めるか委員を辞めるかどちらかということだと思うので、最初に了承して委員になった訳だから。その前の段階でやらなければいけないことで、委員会が設置さ

れて委員になって、設置要綱があって設置要綱を読んでもらってそのうえで委員になった訳でしょう。なぜこんなことに時間がかかっているのかはわからないが、市民のために検証項目の中身を早く明らかにすることが先手だと思う。なぜみんなの意見を聞かないであなたの意見だけがどんどん出てくるのかが私はわからない。

田口委員長 私は市民検証委員会の目的というものに対してのみんなの認識が違くと・・・・・・

堺委員 今日委員長が出した資料の中で、平成24年4月広報の「総合的な見地から検証するため仙北市政策検証市民委員会を設置します」という目的と市企画政策課が出した回答は中身が違います。そういう意味では合っていて納得がいけないというのは非常によくわかるが、中身にいかないでまた同じ論争を何分間も続けていくことが、私としては時間も足りないし、やるのであればやっていただきたいし、この委員会がおかしいということであれば委員長権限で解散すればいいと思います。

田口委員長 私はこの流れからして違うものになっている訳ですから1回りセットするべきこともありだと思います。

堺委員 だから辞めたらいいのではないか。設置要綱に賛同して委員になった訳だから。

大和田
副委員長 設置要綱に関して確認しておいたほうがいいと思う点がありまして一言よろしいですか。この要綱は附則に22年4月に施行すると書かれていて、たぶんこの時はマニフェスト検証委員会だった。そして24年4月2日に改定されている。この時に名称変更するというような項目が書かれていなかったりするの、ここで何かがあったのかなと思います。マニフェスト検証委員会が政策検証市民委員会にここで名称変更されたと思います。この時に1項目説明があればよかったのではないのでしょうか。

西村委員 確かに個人の採点をするのではない、選挙の時とずれるとかどうかという話もある。だが、市長は選挙の時に勝手にとは言いませんが彼は彼の情熱でマニフェストを発表しました。それを市当局は新しい市長が出て来たのでそれに基づいて、選挙公約もしているし、市長の色々な思いを市の政策に落とし込みましょうということで、マニフェストと実施計画との関係ということでイコールではないですが、担当部局の市職員としては市の政策としてマニフェストから多少後退はしているのですが、やれることとやれないことがある訳だから、選挙の時に一生懸命情熱を持ってやって勝ちました。だが、実際にやろうとすればそれを政策に落とし込まなければいけない、落とし込んだ結果として1年でも2年でもやってきたことについて検証してくださいと言っている訳だから、先程総務部長が言ったとおりでいいと思います。元に戻って最初にマニフェストをやってくださいと言ってそれが後退したとか遅くなったことなど、これは誰だって事情はあります。そのとおりにはいかない。名称が変わったとかということではなくて市の政策になったのでそれを検証してみてくださいということ、市長が約束しました、それを政策に落とし込んで2年間やりました、マニフェスト検証と政策検証の整合性からすれば後退した気もあるが、市の政策として着々とやっていることを検証してくださいという総務部長の説明を、名称が変わったとかというような話ではなく、中身を粛々と現場で具現化してやっているものを検証すればいい話でしょう。それでその後マニフェストに戻らなければ市長が選挙をやりにくいということであれば、2年間が終わった後の3年4年後にどうやって反映させるかを市長と当局と議会がまた協議して、我々の意見を聞くか聞かないか知らないが一旦中間で検証してくださいということをお願いしますということ、第三者の目で検証してみてくださいということ、自分達で内部評価してさらに我々の意見を求めている訳だから、それに対して、マニフェストではこう言ったが政策にはなかなか反映されていない部分もありますねとか、けれどもやってくださいとか、進捗状態を政策として我々に評価してほしいという

総務部長の話しに我々は答えればいいのではないかと。名称等にこまごまとやる必要はないと思います。

田口委員長 名称ではなくて中身の話しです。

西村委員 今言ったことを検証する気はないんですか。私はそれでいいと思いますが。

田口委員長 今回の設置要綱にしてもおっしゃるとおりでそういうことでいいのですが、その前の流れから変わってきているのではないかとこのことを指摘している訳です。ということはこの委員会はマニフェスト検証委員会ではないということですかね。

西村委員 政策を検証してくださいということだから政策検証委員会です。今進めていることを検証してくださいということ。

佐々木委員 色々な意見がありますが、委員長が言うとおりの流れ的には首を傾げるところあります。ただこの前の会議で設置要綱の第1条が基本になって我々が委嘱状を受けて40の政策でやってくださいということなんです。確かに総務部長が言うのはわかるが、実際はマニフェストであってそれを政策に落とし込んで、ですから8つの約束と40の政策を我々が検証すればいいのであって、もう10時ですからそろそろ結論を出して次にいかなければならないと思います。

西村委員 結局、これから作業していくうえで市長のマニフェストがさっぱり政策に反映されていないのであればそういうコメントを出せばいい話して、これはよくやっているとか、政策として反映されていないし進行もしていないということであれば、それはそれで我々も意見を述べれば市側も考えるし、マニフェストだけでなく両方やって政策に落とし込んで、その結果2年間の分を検証してみてくださいというのだから素直にそのとおりにやればよくないですか。

佐々木委員 我々は22年度23年度の検証ということで委嘱を受けた。任期が終わろうが今の段階では上期2カ年の分を検証すればいいのであって、選挙のことまでは考えなくてもいいということだと思います。

田口委員長 私はそれがダメだと思っているんです。委嘱を受けているのはそうなのですが、役所が用意した枠の中だけでやればいいのかということではダメだと思うんです。市民が検証する訳だから役所の枠を離れなければダメだと思います。確かに役所が用意した要綱とか枠組みはそうかもしれないがそれでいいのかということは我々が考えなくていいんですかね。

西村委員 私はいいと思います。市長の公約を議会を通して予算まで決めてやった市の政策を検証すればいい訳です。

田口委員長 それで本当にいいのかなと思います。というのは選挙の時にこういうことをやると訴えて当選した訳です。それが本当に達成されたかどうかの検証もなしに次に進んでいくことは出来ないと思うんです。そのことをはっきりさせるべきだと思います。

西村委員 マニフェストで言ったことを政策に反映させて市職員は動いている。

田口委員長 それはそうです。そうであればマニフェストの検証でいいはずですよ。

西村委員 だからそれを政策に入れているかないかも併せて両方見ればいい話しです。

- 堺委員 中身で勝負すればいい。前段の話はいいから。
- 橋本委員 確かに市長選でマニフェストを出して市民の同意を得て当選したが、それをやろうとしても議会もあるし、せっかくその気で頑張っても否決される場合も出てくるとも限らない。だからマニフェストと実施計画、実効性を検証すればそれでいいと思います。
- 堺委員 委員長の立場というのはこういうことをするのではなく、今日のような資料を出すとも思っていなかったし、前回の最後の話しでは設置要綱の中に40項目に対して審議すると書かれているのだからそれを受けて委員になったのだからその話しをすることで終わったはずなので、こういう資料が出てくるとは夢にも思っていなかった。問題ももう一つあるが、企画政策課で出した資料の中に、検証の結果に応じて必要に応じて優先順位の明確化や政策の見直しなどもあり得るものと認識していると書いてあるが、こんなことは出来る訳がない。もう24年度予算が出来上がっている訳だし。こういうことは公式文書の中には書かないほうがいいと思います。検証委員会として報告書を作成しそれを皆さんに公表するというのであればいいが、この結果に基づいて優先順位や政策の見直しをすることはこの委員会の権限には入っていない訳なので、余計なことは書かないほうがいいと思います。これは一人歩きするから、これを約束したとなれば24年度の予算の見直しを要求するといわれればそれをやるんですかという話しになる。いかがですか。
- 事務局 市としてどのようにしたいのかを聞かれると思ひまして書いた次第です。
- 堺委員 24年度の予算は既に執行されているので更に補正予算でやるのかとなればまたおかしな話しになる。
- 西村委員 これは皆さんの意見を聞いてやりますという優しい言葉であって反映することに努力してくれればいい。意見を何も聞かなかったとなれば後で叱られればいい。意見を拝聴して何とか反映したいという気持ちはありがたいことだが、余計な約束をすれば挙げ足を取られる。そういう気持ちでいてほしい。
- 牧田委員 肝心な話しでまだ納得できない話しをどうしますか。そうしないと進まないです。
- 田口委員長 要するにマニフェストの検証委員会があって、そして今回設置要綱があって政策検証市民委員会がある、これが別物だと、あくまでも我々はこの設置要綱に基づいてここに集まっているということであって、市長のマニフェストについては別途という整理でよろしいですか。これをまぜこぜにしてしまって、報告書がマニフェストの検証委員会の結果ですよ、約束8ですよということでは困る訳です。報告書が出ると一人歩きますので。9月議会に報告したいという話しが出ていますが、その時に市民の皆さんからマニフェストの検証、8番目の約束を守りましたと言われるとそれは違うという理解で皆さんよろしいですか。別途ということで、我々はあくまでこの設置要綱に基づいてそこを土台としてやるという理解でよろしいですか。（一同了解）それではそういう整理で進めて行きたいと思ひます。
では自己紹介に移りたいと思ひます。
(各委員自己紹介)

3. 案件

- 田口委員長 それでは次第に入ります。1番目は終わりましたので、分野別政策検証に入りますが、その前に前回の決定事項を確認しておきたいと思ひます。市からのリクエストとしては上期2年間の検証を行いたいということで、それについて8月末までに報告書を公開すると

いうことにしました。これは市から9月議会に出来れば報告したいという話がありましたのでそれに応じたかたちになっています。検証をまずやってみようと、初めてのことでどういった内容になるのかあるいはどういったかたちのものを出していくのかわからないので、まずは一つやってみてそれを基にしてどういったかたちにするのかを見積もろうと、それが決まればスケジュールも決まってくるということだったと思います。それからどういった評点の付け方をするかは宿題でしたがそれも今日の議論になります。また検証をする対象ごとに担当部署の職員に来てもらうこともお話しをいただいています。

そうすると1番目の「私が仙北市のエンジンになります」約束の1番に相当するものですがこの検証に入っていきたいと思います。今話したように検証することもそうですが今後の検証作業を進めていくうえで、どういった検証をしていったらいいのか、そのかたちを決めるということですのでそのことを念頭に置きながらやっていただきたいと思います。たたき台があったほうが良いと思いましたが、私のほうで検証方法の検討という資料を作らせていただきました。

(「検証方法の検討」資料説明)

どうでしょうか。前回市役所から提出された外部検証資料、アクションプランに対して1ページというくくりで整理されていますが、私達もこれと同じようなくくりでやっているのか、私の今の問題提起はそうではなくて、達成すべき指標をまず定義してそれに対して精査していったらいいのではないかという問題提起です。私はこのように考えたのですが、皆さんも前回から1週間考えてこられてこんなかたちで進めていったらいいのではとといったお考えがあると思いますのでご意見をお願いします。

堺委員 前回の約束で資料を出来るだけ早い段階で出してほしいとお話した。前は最初に約束項目の①④⑤くらいまでやってみませんかという話しが委員会の中の合意事項として出たと思う。先程の話もそうですが、委員長がそういうふうを考えるのはかまわないですが、企画政策課が所管する政策についての話しを今日やってみませんかという話しでなかったですか。

田口委員長 そのとおりですが、どうやるかという話しです。

堺委員 それで今日試しをやってみたらどうですか。今日の項目を10人で話してみても時間がかかるようであれば更に検討プランを検討するかたちで、私は①④⑤と考えていたけど。

田口委員長 どういう整理をするかを先に決めないといけないということです。最後にアウトプットを出さなければいけない訳ですが、①と言ったって対象は何ですかという話し、アクションプランなのかそれとも達成すべき指標なのかということ。具体的に堺さんのイメージだとアクションプランの1番だとこの資料の我々が検証の対象として見るべきものというものは外部検証の資料を見ながらというイメージですか。それともこれの基資料ですか。

堺委員 別の資料がほしいと思っていました。そういうのがあると思っていました。

田口委員長 それは前回の話しの中で言えば出してくれることになっていましたね。

事務局 今回はA3の大きい資料を出させてもらっていますので、これが前回お配りした資料よりはやや詳しい資料ということになります。

田口委員長 前回配布された資料は外部検証資料なので、それをまた我々が検証するというのもどうかなと、検証に検証を加えるというのもどうかと。アクションプランを1個1個見ていってもそれでどうなのかというか、結局それで何かを達成しようとしている訳なので、その達成しようとしているものがどの程度達成されたのか、目標どおりいっているのかという

のが検証で、このアクションプラン1個1個がちゃんとやっていますねというだけで単に監査しているだけで、これをやって何を達成しようとしたのかということに対してどこまで届いたかということだと思えます。上期は50でした4年たったら100でしたとか80でしたとか、その達成すべきものが何なんだというものが最初に定義されてどこまで近づいているかという検証なのかなど。これはアクションプランだからそれを達成するためにやっているだけの話なので、やりますと言ってやれば○ということになってしまうので、やったって達成すべきものが達成されていないとしようがない訳ですから。

西村委員

ここに出した資料が足りなければ色々なデータなり資料を出してくれるという話ですね。委員長は色々な資料をもらったかもしれないが私も忙しくて細かく全部は見えていないので、今日は約束の①と④と出来れば⑤までいきましょうということなので、ここに出されたことを説明受けながら、例えば市行政総点検をやっていますという話だとすれば、それを1個1個全部聞いて全部出来ているかという検証なんていうのは出来るはずもないし、だけれども点検したとは言うがその内容を全部出せという話しをしたって時間が足りなくて大変だと思います。順番にここに書かれたことの説明を聞きながらそれを納得するかしらないか、納得しなければまた色々な資料を求めて説明を受ければいいし、そのような段取りで行政側のペースとかでなくそうやっていかないと膨大な市役所の資料を全部集めてこないと検証委員会が出来ない話だから、上っ面だけだと思う人もいるかもしれないが、説明を聞きながら納得したりしなかったり足りなかったら掘り下げてどんなことがあったかとか、将来ビジョンを描きますなんていうのは夢を語っただけの話に対して色んな政策をやりました、ああそうですかと聞くしかないのではないですか。それが実際の項目になっていった時に具体的なことに落とし込まれているかどうかの政策を見ながらその効果を必要な数字を出してくれとなった時に出すと言っている訳だから、そんな検証の仕方では着々とやっていくしかないのではないのでしょうか。資料の説明文書が短かくて納得しないとすれば、この中に表現しきれないものがあるとすれば我々がもう少し聞きたいとすれば説明を受ければいい話で。

牧田委員

私たちが資料は前回貰ってこれしかなかった訳です。あとは色々な意見を聞いてきたが、例えば市行政総点検はこれを全部やった後に決まってくる話ではないですか。数字は出ているがそれぞれ文章の中で私は感じたことを質問しながら説明を受けて一つ一つ順番に進めていきたいと考えて来ています。例えばアクションプラン1でいけば「サマーレビューを実施し23年度には提案を行うなど職員の意識改革も徐々に進んで来ていると思われる。」という評価になっていますが、市民の声はそうは言っていません。やはり職員が力を本当に発揮してくれているのだろうか、意識が変わったのだろうか、というような評価は市民の声としてあるが、ここに書かれているようなどういう点で意識がどうなってきたのかということの市の担当からこういう評価が出る根拠になるものを具体的にいくつか提案してもらいそれを検証していくものと考えて来ました。

田口委員長

それが達成すべき目標、市民が評価した時に確かに市役所は変わったと、それが達成すべき目標だから、それを検証しようと思ったら我々が市民の代表だとすれば我々が評価すればいい訳だし、必要があればアンケートの方法もあるかもしれないが、それが達成すべき目標はそのことです。これを1個1個見ていくだけではなくてそれが目標だと定めて、これも見ていくが結局は達成すべきものがどうだったかということの評価しなければいけないということだったのですが、そういう意味では達成すべきものを先に定める、約束①の「私が仙北市のエンジンになります」というのは結局これで一体何が達成されるんだというのを整理して、それに対して今どこまで来ているのかをアクションプランを見ながら検証していくということではどうでしょうか。

委員一同

まずやってみましょう。やってダメだったら変えればいい。

田口委員長 ではそのとおりに進めたいと思います。では約束①には4つのアクションプランがある訳ですが、最初の市行政総点検についての概要は記載のとおりです。実績については事務局から説明を願います。

事務局 約束1の項目は全部で4点あります。今日お配りしたA3の資料については、マニフェストと総合計画の実施計画の関連で一对一の関係です。例えば所得を増やすとなるとマニフェストの一つに対して項目がずらっと並んでくるイメージですが、約束1に関しては一对一の関係ですので資料に記載の内容が前回配布の1枚ごとのアクションプランの検証結果に反映されているとご理解いただきたいと思います。

市行政総点検として22年度に実施したことは、補助金事業を対象としたスプリングレビューの実施、新規事業やマニフェスト事業を対象としたサマーレビューの実施、試行段階ですが50の事務事業に対する事務事業評価を実施しています。事務事業評価については本稼働に向けた外部評価の検討に入ることにすることで22年度時点で課題でありました。23年度は3年経過したことで、本稼働・外部評価へ向けた検討を行い事務事業評価は実施しなかったということです。検討結果・評価結果の予算等への反映や職員の改善意識と協力が必須であること、もっと試行段階を踏んで試行錯誤を繰り返すことが必要と判断し、次年度以降も試行段階として事務事業評価を実施するというので、これが実際に担当する部局の意見となっています。

田口委員長 行政総点検をやった成果物としてはスプリングレビューとかサマーレビューの成果物があるのですかね。

佐々木委員 総点検は大仙市は以前からやっていて現市長になった時にすぐにやっている。その時に仙北市は前市長の時にやらないで今やったということですか。それだけ遅れているということですか。やっているという意識はあったのですか。本来やるべきだったものが今までずれたという感覚でいいですか。

倉橋総務部長 合併してからの行政改革大綱で色々な行財政改革を実施してきた中で、行政評価システムの導入ということで試行段階のままで本格導入まで至っていません。県や大きい市では本格導入していますが仙北市はまだそこまで至っていません。

佐々木委員 行政改革の一環として機構改革もかなりやられていて新しい組織を作った。それらも踏まえて機構改革を行なったという前提で出て来ているのですか。

倉橋総務部長 事務事業の見直しということで財政的に非常に厳しい状況にあるということと、職員数をまず減らしていくというのは大前提で、現実に退職する職員が毎年40人近くいるのですが新規採用は5人程度ぐらいでどんどん職員は減っています。それで行政サービスを低下させないでいくとすれば組織機構の見直しと市でやるべき事業の見直しをしていかなければ絶対間に合わないと思います。毎年やっているのですが率直に言ってそれがシステム化出来ているかというと出来ていないということです。門脇市長になってからも色々な試みはしていますが、それが市民の皆さんに明確に市役所は変わっていくんだということが見えていないのが実情なのかなというのが我々の認識です。皆さんからもそのへんは十分でないというご指摘は当然あると思っています。

田口委員長 検証というからこれに対して今こうだというのがないただしゃべっているだけだと・・・いかがですか。

佐々木委員 こうなりますというのが他の市よりもずれてしまっているから、ずれたままのところでもいいのかということで発言したのだが。行政評価システムは立ち上げて本稼働したことに

対する評価だと思います。それしか評価は出来ない、他とは比べられないが。

堺委員

これの最終目標は何だったんですか。今回商工会で参加している訳ですが、商工会もゼロベースということで予算折衝とかその類で色々な影響がありました。最終的な目標は補助金をゼロにすることが目標であるのか、市を活性化するためにどういうことをするというのが目的でこういう総点検を行なったのか、今日は観光協会の代表者もいますが観光課の人員は大幅に減っていますね。それから商工課の人数も大幅に減っている、行政総点検するということは人数を減らすことなのか予算を圧縮することなのか、それとも効率的な経営を目指して最終的に市民の力も一緒に巻き込みながら行政をやっていくということが最終目標として出されたのかということをお聞きしたかったので、その結果の中で大幅に各課の人員は削減された、かたや新しい自分の政策に基づいた課には人員を大幅に配置してというかたちがあることは誰が見てもわかっていることだと思うが、最終目標値はどこまで行きたいのか、毎回予算折衝するたびに予算を減らす話しか出てこない、新規政策を色々出してもそれに対して出せる予算はないという話の中で、予算の効率化とただそれだけを目指してこの政策というのはやっているのかどうなのかが良くわからないことなので、最終目標はどういうところに置いていてそのために現在の段階ではどのレベルにあるという判断をしているのかを教えてください。

橋本委員

アクションプランから見て、22年度の事業でやろうとしたがネックだった、どういう訳でネックだったということ言えば、それは検証の中でそれは進めるべきだとかということが出てこないとも限らないと思う。そういうところも事務局から説明があれば。ただ書かれただけではどこまでやっているのかわからない。

草薨委員

先程堺さんが行った課題をきちんとしていけばいいと思う。

堺委員

今こういうレベルにあるということがわかる。

田口委員長

総務部長いかがですか。

倉橋総務部長

この項目で最終的に目指すところはきちんとした事務事業なり行政評価を出来る仕組みを作ることだと思っています。そして毎年毎年見直していくかたちだと思うのですが、その試行段階にあってまだ明確になっていないのが実情ではないかと思っています。予算の件も5年計画だったら5年計画の中で予算査定が出来るかということと毎年その時々状況によってしか出来ない、人事の問題あるいは組織機構もとりあえず来年はというような感じで終わってしまっているのが現実です。それをもう少し4年なら4年のような単位で目標を持って、市はそちらのほうに向かっているんだと市民の皆さんにわかってもらうようなところが目指すところではないかなと思っています。なかなか来ていません。

田口委員長

数値化出来ない部分もあると思うのでなかなか難しいと思いますが、行政はやって終わりというのが多いと思います。計画して終わりとか計画してやって終わりで、その後のPDCAのチェックの部分とアクションの部分がなくてということだと思いますが、やはり目標を定めてそこにいったらどうかをチェックしてそのうえで計画を立て直して見直していかないといけない。そういう意味ではこういった事業をやる時にも何が達成目標でそれが達成されたかどうかを自分達で検証できるかたちで計画を立てていかないといけないと思います。質問されても答えられないのはそういうふうになっていないということではないかと思っています。

牧田委員

行革大綱がありかなり関連した部分がある。例えば補助金ひとつとっても。今日資料を持っていますが、環境の変化への対応、補助効果の検証、受益者負担の確保等々と色々な

目標があって、例えば合理的なものだったらやりましょうとかそうじゃないものも市民の目で検証していくということで行政改革懇談会があります。その中では例えば補助金の問題にしても、最初のころはかなり無駄なものは市民の目で少しずつ整理されていって、それでも翌年度やそれ以降どうなっていくというのが計画を立案する計画はあったと思うが、それとの関係が出てくると色々なものの基準が数字として出るのではと思うがそのへんはどうなっていますか。

事務局

第2次行政改革大綱として23年から27年度までの5年間分を昨年策定しました。毎年度検証するというか、行政改革懇談会を開いてそこで報告してご意見をおうかがいするというかたちをとる予定です。初年度の23年度分については今集計中でして7月頃委員の皆様にお集まりいただく予定です。実施計画として各年度の目標設定をしてその数値を定めています。それが達成しているか、していないとすればこの後どのように進めたらいいのかというようなご意見をうかがいたいと考えています。行革についてはそういう検証をしていただきたいと思います。

田口委員長

行革についてはそのような評価基準があらかじめ設けられているということですが、市行政総点検に関しては具体的な目標値は現状ないということですよ。

西村委員

今1番で引っかかっていますが、前回資料のアクションプラン検証一覧の中に、平成25年に目標とする指標として新たな政策や事業提案を内部の色々な総点検をして200以上の問題点を探して、それを点検しながら改革しようとする目標だからいいのではないか、このとおりである。それに対して最新値が124件、色々な問題が出てきましたと、それを逐次やっていますよということだから立派なものだと思います。ただ、実質やっているかどうかは自分達で検証すればいい話して。それと、今日配布されたA3資料の中で一番大事なのは職員の改善意識と協力が必須であると書いてある。こういうことが一番大事だと書いてある。そしたらそのことに対してどういうアクションをしたか、例えば職員の意識改革の勉強会をやったとかという話してはないが、政策推進課で色々なことを点検しました、結果として職員の意識改革が一番大事だとすればそれに対する職員の意識を上げるためにどんなことをしたのか、次の政策に活きるためにどういう意識を職員に植え付けるために市長はじめ幹部職員がどう対応したのか、そういうことが一番大事である。結局市長はマニフェストでカッコいいことを言ったってみんながやる気になってこの意識改革ですよ、そのために124件も色々な事業を提案した、職員の意識改革が一番大事だということをコメントしている。これが正解なんですよ。各部署によって色々検討して職員の意識が変わったかどうかの話しです。変わるためにこれからどうするかという話しです。このコメントしてあるとおりなんです。この目標に向かって市民の協力も必要だが一番大事なのは職員の意識が変わることだと認識していることは救いです。それを是非進めてください。そうすれば良い評価が出てきますよ。職員がやる気になれば、市長だけ選挙公約したって政策に落とし込むこと、そのために総点検をします、色々な問題がありましたと認識していれば立派なものです。あとは職員の意識を変えるために幹部職員はいかに色々なことを勉強会なり部長会議をやっているらしいです。それをもっと末端に落としこむようなことを是非やってほしいと思っています。この項目はこれぐらいにしないと1日終わってしまいますよ。

前回の資料の中で、自己評価が3でも外部評価がCだとしか思われていないことを恥ずべきで、これから努力するという意識を全職員が思わせるようなことを幹部職員が末端まで意識改革させることをすべきです。

大和田
副委員長

今の西村委員の意見に賛同ですが、124件の提案の具体的な内容が知りたいところです。それが着手されたとかこれは棚上げになったとか実際に実現したとかそういうものが一覧になっていけばもうそれでわかりましたということなんです、提案されたまでだ

と評価しますというだけで終わってしまうところがあります。たぶんそれは事務局に資料があると思うんですがどんなものが出たのかを市民としては知りたいです。

- 事務局 この分野の成果物としては行政評価報告書とサマーレビュー一覧調書があります。
- 委員数名 何か特徴的なこれだというものがありますか。すごいと思われるようなものが。
- 牧田委員
堺委員 今事務局が探している間に聞きますが、病院の職員は職員数に入るんですか。通常は事務職員と別枠で数えている。
- 西村委員 探している間に次にいきましょう。
- 田口委員長 今1番目をやった訳ですが、これに対して出た意見を文書で整理する、あるいはABCとか123とかというかたちでやるかどうかをまだ何も決めていないのですがどうでしょうか。
- 堺委員 本人達が外部評価Cと評価されてどう思ったのかをお聞きしたい。なにが悪くてCになったのか。
- 事務局 外部評価の基準としては、数値目標が200件に対して124件という結果ですのでその基準に当てはめるとC評価になるということです。当然他の文言に対する総合的な評価も加わっていると思いますが、メインはその数字に対する基準です。
- 堺委員 秋田経済研究所は1項目についてどれぐらいの時間の検討があったのでしょうか。
- 事務局 実際の時間は確認していませんが委託期間は1か月です。
- 田口委員長 研究所ではヒアリングはされたのですか、我々みたいに研究所が来て。
- 事務局 ヒアリングは直接出向いてはないですが電話でのヒアリングはありました。
- 佐々木委員 これはこうやっているんですねという程度だと思う。
- 事務局 こちらから提供したデータが乏しいということもあったと思います。
- 西村委員 たぶんこの外部評価は見る必要がない。自己評価のほうが、職員の意識が高いか低いかは別にして程度は別にして自己評価だけ見ればいいのではないか。作業量からすれば。
- 田口委員長 自己評価資料を見ているだけですからね。では自己評価を中心に見ていくとして、次に進むとしてもどうかたちでまとめていきますか。とりあえずもう少しやってみますか。1番だけで決められないので4つまとめてやってみましょう。
次に2番目の将来ビジョン検討事業ということで、概要は記載のとおりです。実績の報告は事務局からお願いします。
- 事務局 こちらの項目については市民等10名による策定委員会を立ち上げています。各回ごとにテーマを設けて協議を行ってきました。課題として総合計画をはじめ他の既存計画との整合を保つ必要性があることから将来ビジョンの位置付けと計画期間等が課題となっています。22年度から通算して6回の会議を開催しています。策定委員会から市長に将来ビジョンが提出されまして、今後の課題として各部署において実効性等の確認の他追加す

る施策等の作業を行う必要があること、その後市民の意見を聞きまして既存計画に盛り込む、又は市の将来ビジョンとしての位置付けを行い市民公表した後出来るものから実行に移すということで、既に公表はしています。これについては数値目標はありません。

堺委員 これは4番も一緒ではないか。

事務局 4番も一緒になりまして、将来ビジョンを公表したということです。課題として市の総合計画との整合性とかそのへんの整理が必要との課題が依然として残るということになります。

草薨委員 今答弁された中で一番感じているのは、合併から6年になりますが私がしきりに思っているのは予算書を今まで検討していますが、予算書の中が何が変わって何がということが見受けられないのが実感なんです。合併時の予算書と平成24年の予算書の内容を見て市が変わったとかやる気があるというかたちのものが見えなかったというのが、だからこれから将来ビジョンの発表についても、こうでこうでこうだからというものがなければ実質的に実施されていない、一例を申しますと、観光は仙北市の主体としてやっていますが予算書の内容というのは多少の変化はあるが、6年の間これについてはこうだという変わり様がなかった。これからはそこまで市民が変えるような推進をしなければいけないのではないかと思います。これから各部署の内容が出てくると思いますが、予算書を検討すれば色々出てくるので新しくなった仙北市だったらそれなりの目で市民も納得するようなものが出てこなければと思います。

堺委員 これは予算も結構ついている訳なのでそれなりの結果を出してもらわないといけないと思いますが、発表はしたのだが23年度の予算でこの内容というのがいくらかでも反映された事業はスタートしたんですか。

事務局 将来ビジョンというのは市民委員会10名で構成して、いわば提言みたいかたちでいただきました。その中身については各分野から比較的若い方に来ていただいて話しをうかがって提言いただいたのですが、ただ、今やっている市役所の中身とか色々な専門分野がわからないから、その分野を市役所でもう1回精査していただいて市役所の将来ビジョンという位置付けをして実施していただきたいという中身になっています。この2月に提出されて最初は各部署に実効性の確認とかをしてそれから出来るものから実行していきたいと考えています。それから将来を考えた場合、本来であれば計画期間を定める必要があるのですが、中身を見れば本当に夢の世界というものも盛り込まれていますので、あえて計画期間を記載されていないと捉えていまして、これから各部署で精査して出来るものから予算要求していきたいと考えています。

堺委員 質問に答えてないような気がするが、何かやったかを聞いた訳なのでなぜ聞いたかという理由は、私も他の委員会にも色々入っていますが、最近の役所の常套句というのが政策の見直しとか優先順位の明確化とかがあるんですが、他の委員会でも同じようなことを乱発しているキライが非常に多い。市行政総点検の中にやたらとこのような委員会が多すぎる、どこにいても必ず最後に同じような言葉を言われる、言っただけでなかなか何も実行出来なければうそつき狼と言われるような状態になる訳なので、ある程度絞り込みをしながらキッチリやっていって本当に懇談会として出来るのであればということは当然必要なことなんだと思う。次の3番に地域力ステップアップ事業が入ってくるが、それもタウンミーティングで同じようにみんなの意見を集約して出来るものから実施しますという話しを繰り返してやっている訳なので、次々に各種会議を増やしているという感じがものすごく強くある訳です。本来であれば役所職員の方々が給料をもらってもっと素晴らしい事業をやってくださるのが本当は一番いい訳なのですが、民意に頼ることが悪いとは思

いません、しかし、やたらと会議が多くてそのたびに必ず本当にこの会議をやって何かやってくれるのかといった時に、見直ししたり事業に早期着工したりしますと言う会議が多くないですか。そのへんはしっかりしていかないと市行政総点検の中に委員会だけに予算を付けてやるというのも問題があると思います。

大和田
副委員長

この将来ビジョンというのはそもそも何なのかということ、ホームページで6回の会議が公表されていまして少しだけ見たのですが、将来ビジョンというのは何を検討する会議なのかということが策定委員会の中で話題になった時に、manifestoの次のその先を仙北市の将来展望を出すのがビジョンの策定委員会ですよという話し合いの記録が残っていたのですが、だからこれは各界から選ばれた10人の方が、仙北市こうありたいねということを自分の理想に基づいて語りあった将来ビジョンなんですね。今年来年の政策ではなくてmanifestoの次の展開をするビジョンなんですよとなっていて、かつ、これはたたき台ですねという話し合いもされていまして。ですからこれに基づいて何が具体化できるのか施策化出来るのかというのはこれから担当部署が色々詰めていくこともあると思いますし、市民の意見ももっとここに組み込んで、これは将来ビジョンとして決定したものではないのではとの認識に立ちました。このビジョンをこれからみんなで煮詰めていくたたき台ですよという認識をすれば少し納得できたという感じがしました。

事務局

そのとおりです。市民委員会の将来ビジョンということでそれを提言として受けまして、これから市役所で詰めていきたいということです。

田口委員長

市民に対する周知が必ずしも出来ていないというのは問題だと思います。

西村委員

色々な委員会が多すぎると感じている人はいるかもしれません。でも一般市民やそれぞれの委員会の意見も聞いてやりますよという姿勢の表れだと言われれば良いことですねという話しになります。結局聞いてもやるかやらないかなんですよ。改善だとか委員会に付帯されてみんなの委員会の意見を聞きましたよという時の、トップを含めて職員がいかによしわかったと、自分達だけでなくそういう意見もあるんだなと真摯に受け止めてそれを政策に反映させようとする意識の問題なんです。予算がないのはみんなわかるんです。各委員会の担当部署の職員がその意識を持つか持たないかの話しなんです。ただとりあえず聞いたふりでは困る訳で。だから市民の意見を聞いてくれるのはありがたい、それを選挙をやる人も選挙でない人達もそういう意識を持ってくれることが大事なことです。将来ビジョンを描きますに対しては書かれているコメントをみんなに浸透させることが第一目標だと思います。

佐藤委員

西村さんがおっしゃったように、事業を検証するという意味においては将来ビジョンの検討と発表に関しては、やるべきことはなされているという気はしますので、事業の評価としては高いものではないかと思います。それとは別個に、これで終わりましたということではなくて今後ビジョンをどう活かしていくかは別途考えていかなければならないものではないかと思います。

田口委員長

将来ビジョンに関してはやるべきことはやっているのではないかと、評点としてはどう付けるかはともかくとして良い方向の評価だと、ただそれに対するコメントとしてそのことが将来の行政に対して反映されていく、あるいは意識を高く持ってそれを実際にやっていくということを期待するというコメントを付記するような整理の仕方になりますかね。

佐々木委員

民間であれば人事評価全部やってコンプライアンス研修もやっている訳で、今提言がこれだけ出てきているということはすごく良いことです。これが出てくるような職場であれば将来性が出てくる。いずれ人事評価をする前提条件になれば良い悪いをはっきり区別し

なければならぬことが出てくる訳で、根底にあるものがなんだと言えればタイムレコーダーです。タイムレコーダーがなければ人事評価は出来ない、民間では全部その話しになってくる訳です。市役所がそういうものでないとするだけでもかなり世の中とずれていると思っています。それも踏まえて直しながらやっていかなければならぬし、もう一つは行財政改革をやる段階の中で、40人の退職に対して5人しか採用しないとの話がありました。そうすれば将来ビジョンとして例えば潟上市の人口に合わせたもので職員の定数を決めるのかとか今現在はどの程度を目標としているのかを聞きたいと思いました。

田口委員長

それは後に行財政改革のところで議論になると思います。

そうしますと将来ビジョンについては意見が出尽くした感じでしょうか。それでは最後地域カステップアップ事業に移ります。概要は記載のとおりです。対策等について事務局からお願いします。

事務局

市民要望事業の達成度調査については合併後の陳情要望等を分析したことで陳情書等の取り扱いについてのルールが明確化されたということで22年度で終了したことでなっています。市民意識調査については将来ビジョン策定委員会の進捗に合わせて市民2000人を対象に実施しています。結果の概要は広報で公表しています。平成23年5月頃の広報だったかと思います。23年度についてですが、当初は市民意識調査を毎年実施することにしていたのですが、行革大綱に基づいて隔年実施2年に1回ということにしたため23年度は実施していません。24年度で22年度意識調査の反省を踏まえ対象者を絞るなどして実施を予定しています。これについては数値的目標としてまちづくりミーティングを累計40回ということですが、23年度末で33回、必ずしもこの名前ではありませんが、まちづくり懇談会ですとかそういった名前で通算33回となっています。コメントとしては、まちづくり懇談会等の市から呼びかけた集まりに対して市民の皆様の参加率が非常に低いということが課題としてあげられています。

牧田委員

外部評価の所見で、どれだけの要望がありそれに対して何件着手し何件未着手なのかと示すべきであるとあるがその後の検討はありますか。

事務局

大変申し訳ありません。これに関しては書かれているとおりでありまして今やっているところです。ここでは明確に答えることが出来ない状態です。検討は始まっています。

田口委員長

これは予定していた陳情要望等の分析は済んで市民意識調査もアンケート調査みたいなかたちでやっているということです。ただ、要望を受けた結果として何件着手し何件未着手という分析までは済んでいないということでしょうか。

牧田委員

これは22年から調査が始まってもう2年たっています。早く出た分には検討されて着手すべきスピード感がないと82%の達成率はあまり意味がないのではないかと。市民は集まりたい、集まってもいいよと思えるようにするには、ちょっとずつでも進める中で、市役所はやっている、タウンミーティングはこうなのだというふうな実感がないと市民の参加は増えていかないのではないかと、いくらやっても、そのへんが魅力のある会を作ってやらないと本当の意味で市民と行政が一緒になってまちを創っていくということは難しいのではないかと。さっき言ったとおり、2年もたつて22年に始めてまだ着手していないのは考えていきたいものですね。

田口委員長

これについては役所からコメントがありますか。着手が遅いということに関して。

事務局

取り扱いのルール自体は出来ましたが、外部評価にある何件着手して何件未着手のところは自分のところでもう少し内容を精査してみないとわからないという状況です。

- 堺委員 22年度からやっているからそれにしても役所の対応が遅すぎると言われている訳なので、せっかく意見を聞く機会や会議を多くして色々な意見を聞くけど何もやってくれないという話が出てくる訳だから、意見を聞いたそれを反映するためにどうするのかということについてはしっかりやらないとダメではないか、それで外部評価がD評価になっているのはそういう意味なんでしょう。意見は聞いた、タウンミーティングの参加率は非常に悪い、なおかつ意見が出てさっぱりそのことについては何も反映されていかないというのがD評価につながっている訳なので、担当課であるので責任を持って、22年度分を24年度になってまだ整理出来ていませんと普通に言えるかというのが問題あるのではないかということではないですか。
- 牧田委員 そういうことです。マニフェストも含めてどういうふう実践実行していくかが見えてこないと物事が進んでいかないと。職員の意識改革は進んでいると言われるがそのへんの意識を市民と一緒に作っていくということがないと、意識改革が徐々に進んでいきますというのは進んでいても実行が伴わないと進んでいたことにはならないことを認識する必要があるのではないですか。
- 大和田副委員長 ご担当も変わっているからそれはどこかにあるかもしれませんが探していただくとフォローさせていただいたうえで、外部評価とここの評価と内部評価のギャップが大きすぎてこのへんもよく見つめていただきたい点として申し上げたいです。
- 佐藤委員 まちづくりミーティングが40回とあげられていますが、これは将来ビジョンあげたかと別で回数は全く意味をなさないと云ったら極端ですが、これで評価するのは33回出来たからとの評価は全く出来ないと思います。やはり内容が伴わないと評価は出来ないと思えます。参加者が少ないということは当然魅力がないことですからかなり大きい問題ではないかと思えます。実際に意見をその場でも出して反映されないというのであれば、今後これはどんな会でも参加意欲もなくなりますし本当に大事な問題ではないかと思えました。
- 田口委員長 この件に関してはだいたい出尽くしたと思いますがどうでしょうか。それでは今将来ビジョンを描きますという1番の大項目について4プランやった訳ですが、これをそういうかたちで、最終的には報告書にしなければいけないので整理する訳ですが、そのことについてご議論いただきたいと思えます。
- 堺委員 最後の項目だけは、実績評価の中で回数だけあるが参加人数も非常に少ないし、それから具体的にプランニングが出て実施された例も何もない訳なので、だいたい整理もなされていないしそれも出来ていないということなので外部評価のDは正しいので、EがあればEでもいいくらいである。残りに関しては色々な点があるだろうから普通評価でいいだろうと思えます。タウンミーティングは最近すごく参加者少ないです。
- 西村委員 市民の政治に対する夢を語る意識の低さもある。それが政策に直接反映されないからイライラしているから、言うだけバカくさいと思わせているのか、実は意識の低さもあると思う。
- 草薨委員 私はだいたい出ていますが4人か5人です。意識というものを仙北市とはこうだという何かがなければ出席しないということでは。6人というのは多いのではないですか。色々な会合に出席しますが、うるさい人とかしか出ていない。
- 事務局 よろしいでしょうか。先程の市民要望事業の達成度調査について整理出来ていないとの話しでしたが出来てはいるようです。ただ私がそれを認識していなかっただけです。大

変申し訳ありません。出来てはいるということで、ただ私の資料集めの段階で漏れていたということです。お詫び申し上げます。

牧田委員　　今の段階でどれくらいですか。特徴的なのがあったら教えてください。

事務局　　今探してからお知らせします。

田口委員長　　先程の話しですが意見を言われるのはいいですが最終的にかたちにまとめていかないといけないので、そのまとめ方についてご議論いただきたいのですが。

西村委員　　コメントは今言われたようなことを要約してまとめれば時間はかかるにしても作文は出来ると思いますが、評価点の話しでどんな点数を付けるかは最低でもみんなでルールを決めなければいけないのではないですか。

佐々木委員　　1から5までに統一したほうがいいのではないですか。

田口委員長　　5段階評価にするとその基準ですね。外部評価を見るとかなり細かく書かれています。どうですか、感覚的なものでも。

堺委員　　書けるのではないか。評価のポイントなどは。

田口委員長　　どうあれば3であってどうあれば5でどうあれば1だとかということなのですが、達成されていれば5で未着手なら1でというような基準ですね。40項目やっていくので統一した基準がないといけないと思います。

牧田委員　　数字としての評価として何回やったかとかについてはあるだろうが、もう一つは内容、これは評価になるのかどうか分からないが、研究所の所見、いずれも着手するとか検討するとか具体的な方向性を示すべきだとか。ここまでは着手し始めたとか、例えば課題があったみたいにタウンミーティングの中を見れば目標をこれぐらいは集めるんだとか、それに向かってやったらどうだったかみたいなことも検討したり方針を出して実践して検討する、そういう意味の取り組みをやったかどうかということの5段階評価、それをある程度やったら5段階評価が3になるとか4になるとか。

大和田副委員長　　内部評価の5段階評価があります。この5段階評価指標とここの検証委員会の指標をもう少し具体的にしないのか別にして、私としては内部評価の5段階評価に対応してみて、内部では3だが私達は2とするというような対比して見えたほうがわかりやすいのではないのでしょうか。

田口委員長　　ということは内部評価と同じ基準でやったらいいのではということですね。皆さんそれでよろしいですか。（一同了解）

そうしましたら内部評価と同じ基準で評価をしていきたいと思います。それでは評価基準に従って4つやった分それぞれについて評価することによろしいですか。それともテーマ全体にするかどちらがよろしいですか。（1個ずつで統一）

外部評価もそうですがマニフェストに書いてある指標があります。新たな政策提案数とかの数値がありますがこれについてはどうしましょうか。これについても併せてやっていくということでしょうか。では4つについてそれぞれ評点を付けていきたいと思います。市行政総点検について思い出していただいて自己評価の基準に基づいて評価点数をうかがいたいと思います。

- 西村委員 それぞれの委員が評価点を言ってコメントを付けて平均点を付けるしかないでしょう。これは意識の問題だから簡単にはいかない。あとは自分達がコメントしている以外に別の委員のコメントも付け加えるとか。みんなの意見を要約してコメントを委員長と副委員長がまとめて考えてもらえばいい。
- 田口委員長 そうすれば順番にコメントと評点を言っていただくかたちでやります。
- 【ここから各委員のコメントと評点】
 アクションプラン1 市行政総点検
- 大和田副委員長 評点は3でいいと思います。何しろ職員全体でこのことに意識を向けて取り組みを進めていることを評価したいと思います。
- 佐々木委員 相対的には3です。今の段階で要綱を設けて評価委員会を立ててまだ発展途上なので3ですが、問題は一つありまして他の所は2のところはある訳です。というのは庁舎に来られる市民に対して非常に親切でないという市民の声があります。市民が庁舎に入ってどこに行ったらいいかわからない、その時に職員がお客さんのほうを見ないことが結構あるようで、意識改革は出来ているかもしれないが実行が伴っていない、税金を納めてもらっているお客様だという意識を持ってほしいという意味で2になりますが、期待を込めて3とします。
- 堺委員 3です。2年間過ごしてきて将来ビジョンが見えない、要するに将来どこに着地したいかをもう少し明確にしていなければ目標に向かっていこう。地域センターが将来どうなるのかとか地域センターに配属されれば俺はこんなところだとかと言っている職員がいるぐらいなので、ぜひ立場的にどうなるかというのを早めに将来的なことがキッチリわかってそれに向かっていくという目標があればいいと思います。
- 牧田委員 2から3ですが3です。意識改革と言うが実践が伴わないと意識改革とは評価できないのではないか、それを早くスピード感を持った行動で市民の実現させる、これは全てに共通することとして提案したいと思います。それを条件で3とします。
- 佐藤委員 3です。124件の提案が出ているところは評価したいと思います。事業内容にある効果的効率的な組織体制の整備という意味では、適材適所・人員配置というところまで考えるともう少し工夫というか、利害関係もあるとは思いますがプロフェッショナルな職員を養成していくところまで期待したいと思います。
- 西村委員 期待を込めて4にしたいと思います。職員の末端まで意識改革するための勉強会なるものを1年に1回とは言いませんが、最低でも1年に2回や3回はやって意識改革をしなければダメです。窓口の対応が悪いなんていうのは、私も小さな会社なんですけどリーダーがいても嫌われたくないからしゃべらない場合がある。全体として意識改革するための勉強会をやるべきである。私の会社の場合は年に2回ぐらい個人面談をする。その前にリーダーとの面談もさせて個人面談している。そうして念仏のように職員に言って教えないと意識改革はしないです。立場上嫌だとは思いますが管理職は徹底してそれが仕事なんだという意識でやらないと。意識改革することで変わるんです。意識改革のための勉強会、燃えてくるような職員を創るための勉強会をぜひやってください。
- 草薨委員 今のところ評価しがたいと思っています。仙北市になって郷土に色々な郷土史とか歴史がある。これを問うても答えが返ってこないのが現実の姿なんです。武藤鉄城さんとはどういう人かと問えばすぐに返ってこない。仙北市にいる以上は武藤鉄城は考古学の先生だ

し縄文といえばピンと来るぐらいの意識を持っていなければいけないと思います。それがないと思います。そうだと全体的なものが進んでいけません。職員は最低限のことは知っておくべきです。点数は2です。

田口委員長 客観的に評価して色々やっています。そういう意味で評価したいと思います。ただそれがどう実行されるかというのはわかりませんのでその点については保留ということですが、その意味で必要な取り組みは実践しているが推進途上ということですので3と評価したいと思います。

アクションプラン2 将来ビジョン検討部会設置
アクションプラン4 将来ビジョン発表（併せて評価）

大和田副委員長 将来ビジョン策定委員会が提案して公表したがこれほどここで決定したものではないんですね。だから策定したものに基づいてこれから大いに市民の意見を反映させ、行政マンの意見も反映させて、本当に仙北市民が自分達のビジョンだと思えるものに練り上げていく、そういう意味でこれが策定出来たということの評価して3だと思います。

佐々木委員 副委員長と同じ考えで3です。

堺委員 約束①の項目の予算規模のうち7割を超えるぐらいの予算をこの委員会に使っている、それだけ期待度が高かったと思います。これだけの金をかける会議は相当重要だと思うので、当然結果についても色々なかたちで実施していかなければいけないと思うので、この金のわりには2から3の間の評価と思います。委員には責任はないですよ、行政としてこれだけの予算を出してやられた以上はもう少しちゃんとした結果を出してあげなければと思います。将来に期待して頑張って3です。

牧田委員 同じく3です。

佐藤委員 3です。ビジョンを市民に公表しというところまではいいですが、意見も求めるところではこれからになると思うので評価しづらいところがあります。作ったところまでを考えると限りなく4にしたいところではあります。

西村委員 3です。コメントはありません。

草薨委員 コメントはありません。さっぱり進んでいないというのが現実です。色々なところで討論され審議されているが、それが実質的に市民の目で見えるところまで来ているかというのが疑問に思います。2です。

田口委員長 4にします。一定の成果が表れているということですが成果物が出ていますので、当初の目的は達成したと判断して4とします。逆に言うと、そうでないところは厳しく付けるという意味で、みんな真ん中に寄ってしまいがちなのですが、出来たものは出来た出来ないものは出来ないということできちんとやっていく意味で4とします。

アクションプラン3 市民要望度事業の達成度調査

事務局 委員長よろしいでしょうか。要望に対して何件着手未着手の件についてデータを紹介します。合併後から22年3月31日までの状況ですが、陳情で102件、要望で206件、合計で308件となっています。一つ一つ対応しているということです。

- 佐々木委員 2です。タウンミーティングの参加者が非常に少ない、努力の跡が見られないということ、外部評価では評価が困難との所見なので。
- 堺委員 やったという結果だけは確かにあると思いますが、中身と人数その他において非常に不満が残るので、着手出来ているが先行きが見えないということで2とします。
- 牧田委員 一番肝心な市民要望事業なので、実のある市民との連携で政策を作っていく、仙北市のエンジンになりますということからすれば、相当の工夫もしなければならぬし人材も投入しながらやらなければならないという点で、それが今一つということで2とします。
- 佐藤委員 事業内容としては達成度調査・意識調査までしか書かれていないので、調査という意味では調査は出来ているので3だと思います。
- 西村委員 市民の政治に対する姿勢、外部評価は民意も相当低いと思っているのでしょう。予想は出来ます、色々な会議の参加者をもても。3です。
- 草薨委員 2です。
- 大和田副委員長 2に近い3ですが3にします。まちづくりミーティングをやる、市長自ら職員も出かけていく、そして市民と一緒に考えるという場を作ったことの乗り出しは評価したいと思いますので、そこに反映されるものは本当に切実な要求であったり、あるいはわがままであったり色々なものがあると思います。それをそのまま実行出来る訳ではないと思いますが、そういう場を設けるということにも意味があると考えまして3にします。
- 田口委員長 3です。着手は出来ていて取り組みはなされているが課題を抱え推進途上にあるということですので3とします。
これは次回まで平均をとってコメントをまとめるようなかたちで渡すことになると思いますが、このコメントを誰が整理するかはどうしますか。今日の目的だった今後どういったかたちで評価を進めていくかという枠組みは今日の方式で確認することが出来ましたので次回以降このようなかたちで進めていきたいと思っています。皆さんから変えたほうがいいのかのご意見がありましたらお願いします。（特になし）
特に問題なしということでもよろしいですか。（一同了解）
私が気になったのは、見た人が例えばスプリングレビューやサマーレビューについて我々がどこまで検証したのか、レビューを見たのかどうかとわからない可能性がある、ややもすれば外部評価も見ていますので、そこまでは立ち入っていないと、ここまでは評価したがここまでは立ち入っていないということをはっきりさせておいたほうが良いと思いますので、やっていないことはやっていないこととして明記したほうが良いと思います。
それでは今日で約束①が終わりましたので、次回は約束④⑤の順番とします。
- 事務局 次回は約束④と⑤ということでそれ以外には入らないということでもよろしいですね。
- 田口委員長 プラスアルファはなしということで④⑤に限定します。今後の日程ですが、曜日で皆さん都合の良い日があれば2週間で1回のペースでいいかなと思うのですがいかがでしょうか。
（日程について協議）
では次回は6月5日（火）午後1時30分からとします。その次は6月21日（木）午後を予定したいと思います。
（次回の準備資料の確認）

次回は地域運営体関係の資料と行政改革大綱の準備をお願いします。

4. 開会

田口委員長 それでは第2回政策検証市民委員会を終わりたいと思います。本日はお疲れ様でした。

終了12:05